

第2回アウトバウンド検討会 議事要旨

〇とりまとめにおける観点について

- ・短期で結果を出せることに絞っての議論は賛成。
- ・中長期的な観点は受け皿としてプラットフォームの設置があり、このような枠組みを活用しながら、検討を進めていけばいい。

〇とりまとめにおける骨子案について

- ・高齢者はお金があっても体が動かない等の声もあり、将来的な需要はあまり高くないと感じている。若い人が海外に行く延べ回数を増やすことが必要。
- ・第1回でも検討した、教育旅行や大学生のインターシップ等の活性化によって取組みの方向性を担保できると考えている。
- ・アウトバウンド活性化、取組みを推進する上で、観光庁や JATA の方針と連動することは非常に重要。
- ・福岡は、人口の伸び率や 20～40 代のアウトバウンド比率が他県と比較しても高いことなど、福岡の強み、若者の多い特性を活かした取組みの推進が必要。
- ・アジアへの近接性だけを抽出すると、欧米豪が抜けていく可能性がある。メインはアジアでもよいが欧米豪の視点も必要。
- ・現在直行便のない方面について、路線誘致の話となると、インバウンドの視点も必要になる。インとアウト相互の力が相まって路線は成り立つが、そもそも九州・福岡は欧米から選ばれていない。
- ・混雑空港である福岡空港では、短期的に欧米豪の長距離路線を考えるのは厳しい。ただし、直行便だけでなく乗り継ぎも含めたアウトバウンド促進は重要と考えている。
- ・直行便のアジア、次に直行便の欧州路線、また可能であれば経由を含めた欧米豪など優先順位をつけ、アジアにこだわる必要はないと思う。
- ・個別の取組みのなかで欧米に関する議論があれば、欧米豪路線を対象にしてもいいと思う。

○一般的な取組みについて

- ・ムーブメントの醸成は、1番簡単そうで1番難しい。
- ・各団体で行っているアウトバウンドの取組みのうち、関連性があるものを連携させれば、もっとよくなるのではないか。
- ・短期的なアウトプットが求められる中、他団体が実施する旅行イベントと連携して、活動のキックオフとしてもいいのではないか。

- ・福岡空港で実施している「とびだせ海外へ」は、空港内のイベントになっているが、まちの中で行うことで、より大きなコミュニケーション活動ができ、一般の人に興味・関心を抱かせることが可能となる。
- ・一方で「飛び出せ海外へ」は地域の方に空港へ来てもらう要素もあるので慎重な議論が必要。

- ・若者を取り込むには、SNS、ユーチューブ、インスタグラムを使い、若い人が情報発信できる仕組みが必要。旅行イベントも短期的に終わるのではなく、来場してない人にも年間を通して発信できる仕組みづくりが必要。

- ・インバウンドは政府主導で、観光庁や九州運輸局、九州観光推進機構などが一緒になって取り組んでいる。一方でアウトバウンドは、どこが情報発信をまとめてやっているか見えない。この検討会をきっかけに、集約し発信できるしくみが必要。

- ・今のアウトバウンド停滞の要因としては間違いなく情報発信不足。
- ・情報発信は、趣旨と目的を明確にしてストーリーのあるものが必要。
- ・海外旅行の素晴らしさを一貫性と継続性をもって発信し、同時にさまざまな情報が集まる部分はバーチャル空間を活用すればいいと思う。

- ・一般を対象とした取組みにおいては、情報発信が大きな課題であることは見えており、SNSを使うことや、ホームページなどにプラットフォームをつくって情報ソースをつくること、またリアルなイベント

を活用していくことなど、いくつか柱をもって海外旅行ムーブメントを醸成していくのがいい。

- ・提言だけで検討会が終わるようなことは避けたい。見える化をしたい。
- ・とりまとめには、具体的な事業として記載しなくても、それらをイメージできるものを残せばいい。

○若者を対象とした取組みについて

- ・海外修学旅行の促進は重要。
- ・修学旅行先として台湾、シンガポールなど人気があるが、今後どこの目的地を狙っていくのかを議論したい。
- ・政府観光局や航空会社をヒアリングした上で、教員を対象とする海外修学旅行の実践研修を実施したい。

○大学生を対象とする取組みについて

- ・大学生と留学生のイベント企画を個人的に進めており、有効的なものがあれば次回提案したい。
- ・海外に行かせるためのインスタ映えする写真コンテストがあったが、今後のやりかたとして参考になった。